

本時のねらい

- ・自己の理解を深め、他者に自分のことを伝える。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・自己分析から発表までをタブレット一つで終えることで、集中力の持続を図る。
- ・自由度の高いスライドアプリを使用し、発想豊かな自己表現を補助する。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromecast
- ・Canva
- ・電子黒板

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 4, K-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての確認 ・自分のこれまでの振り返り、自己紹介のスライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを持たせるために、授業者自身の自己紹介スライドを提示して、めあてを確認する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○Canva の使用方法について授業者の説明を聞く。 【写真 1】 ○授業者、他の生徒との会話を通して自分の活動や長所などを見つけるなどして、スライドを作成する。 【写真 2】 ○自分の自己紹介スライドが完成した生徒は、他の生徒の作業を補助する。 【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞くだけでなく、実際に触って、そこで生じる疑問や問題に適宜対応しながら、使用方法を理解させる。 ・テンプレートを配付し、構成ではなく、自己紹介の中身に集中できる環境を作る。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○次回の活動について説明する 	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】Canva の使用について説明する様子



【写真 2】スライド作成中の様子



【写真 3】他の生徒を手伝う生徒

児童生徒の反応や変容

- ・自分のことを振り返ったり、自己紹介のスライドを作ることに抵抗感のある生徒がいたが、作業を通して自分の新たな面に気づき、自分を見つめ直すとする姿が印象的だった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・生徒の中には、自分の考えを具現化することに抵抗感があつたり、なかなか前向きになれない生徒がいる。その点、Canva など自分のイメージを具現化しやすいアプリケーションを活用すると、前向きに自分の考えを表現することができるので、タブレットや Canva の活用は効果的だったと考える。